# 令和７年度第６回　多摩市男女平等参画推進審議会　要点録

開催日時：令和７年 11 月 11 日（金）17：00～19：02

場　　所：TAMA 女性センター　活動交流室

出席委員：中島康予委員、木本喜美子委員、神子島健委員、鈴木景子委員（オンライン参加）、島田直広委員、髙井雅秀委員、本間まり子委員（会長・副会長以下 50 音順）

欠席委員：木村有希委員

計画改定受託事業者：（株）文化科学研究所（オンライン参加）

事 務 局：古谷部長、西村課長、武井係長、米山主任

傍 聴 者：１名

（発言者凡例：◎会長、●副会長、○委員、□（株）文化科学研究所、◇事務局）

１　開会

２　議題

（１）［報告］令和７年度第５回多摩市男女平等参画推進審議会要点録の確認について

○４ページと５ページに「セクシャル」と「セクシュアル」の２種類の用語が出てくるが、どちらがふさわしいのか。

◇「セクシュアル」に統一したい。

○３ページの真ん中の辺りに、「「きづく・つなぐ」のための多摩市版地域包括ケアシステム研修」という表記があるが、二重カギ括弧は分かりづらいように思う。

◇括弧の種類を変えるようにしたい。

○３ページの「トランス女性」に関する記述について、困難女性の中に明記するかしないという議論を前回の審議会で行ったが、他の LGBT の方々とのバランスの問題もあるので、書き方に留意して頂きたい。

◇修正・追加がある場合は 11 月 21 日（金）までにご連絡を頂きたい。頂いた意見を反映し、要点録を「確定」とさせて頂く。

（２）　［協議］第４次多摩市女と男がともに生きる行動計画中間見直しについて

（資料２～４、当日資料１～３について事務局より説明）

○「５年間の進捗状況の評価」は、「掲載するかも含めて調整中」ということだが、今までの計画では掲載していたのか。４ページ「中間見直しの趣旨」に簡単なまとめがあればなくてもよいとは思うが。

◇今までの計画には、「前回計画からの進捗状況等」の記載はない。ただ、審議会からは

毎年「外部評価」を頂き、行政として「内部評価」も行っているので、計画の中間見直しとして、前期５年間分の推進状況と次の５年間にどのように繋がっていくのか、紹介しておく意義はあるかと思う。一方で、毎年、外部評価を含めた「推進状況評価報告書」も出しているので、そちらを確認頂きたいという考えもあり、取り扱いを悩んでいる部分もありご意見をうかがいたい。

○５年間の所感として、１つはコロナ禍で改めて見えてきた「困難な状況に置かれた方への支援」という課題と、もう１つはこれまで審議会として何度も提言を出している「災害対策」について、状況は違えども非常事態を想定して、そこで弱い立場の方がしわ寄せを受けないよう予め備えておく重要性として、この２つのメッセージを入れておくとよいと思う。

○どのような形でも振り返りについては掲載した方がよいと思う。

◇「見直しの趣旨」の中にこの５年間の振り返りを含めた形で、審議会から頂いた提言なども踏まえた内容を入れ込んで作成したい。

○コロナ禍での色々な問題について、特に女性に焦点をあてて議論されてきたと思う。非正規雇用の女性達が派遣切りにあったり、自殺が増えているであるとか。また LGBT の方の権利もここ５年で特に叫ばれてきた。困難女性への支援に加えて、このような新しい視点を意識しているのか。例えば 14 ページ「目標設定事業」ところでは「特に困難な状況にある人への配慮」と書かれている。「女性」とは書いていないので、意識してこの言葉が選ばれていると思うが、女性ばかりではなくすべての方への支援についても配慮をすることが求められている。同時にセンターの名称変更についての議論もあり、困難女性への視点と、すべての方へ幅広く支援を行う女性センターの役割をしっかりと検討する必要があると思う。

○今までの計画には、これまでの取組について書かれた部分はなかったのか。

◇5 年前の第 4 次計画策定時は､｢計画策定の趣旨｣にこれまでの多摩市の取組を記載し、「計画の背景」として、国や東京都や多摩市の動きなどのトピックスを入れている。各所に散りばめるか、独立した頁を設けるかという所である。

○今回は特に計画の「見直し」なので、改めて経緯を説明する必要があると思う。

○5 年間の出来事としては、コロナ禍において職場ではオンライン会議やオンライン面接の形態を常態化したという副産物もあり、女性の就業のあり方にも影響を与えていると思うので、ぜひ記載して頂きたい。

○計画は市民に向けて発行するものなので､できるだけ興味を持って読んで頂けるよう、５年間を振り返り共感できるような文面があるとよい。審議会からすると、毎年市の事業を評価し、議論にも時間を割いているので、その成果も示したい。審議会で審議した内容に、市民の方がどれほど興味関心を持っているのかについては、バランス感覚を持って、精査して掲載する必要がある。

○「計画の期間」について、西暦表記のみだが､「和暦」と「西暦」を併記してほしい。

○1994 年から始まった計画の大きな連続性の中での見直しなので､直近 5 年間については記載する必要があるのではないか。

○審議会からの提言などは、多摩市公式ホームページの該当ページの二次元コードを入れて、ホームページに飛べるようにしたりはできるか。

◇各委員からご意見があったような形で、これまでの 5 年間の女性に対する課題への取

組について、中間見直しの趣旨に盛り込んでいく。二次元コードの掲載についても検討したい。コロナ禍では、女性の困難さが顕在化したことに加え、男性の生きづらさも顕在化してきた。そのあたりを計画策定の趣旨の中に入れ込めるか検討したい。また、計画の期間について、見やすくなるよう工夫したい。

○「特に困難な状況にある人」と条例に書かれているため、制定の際にきちんと考えられていたのだと感心する。

○SDGs の掲載については、何か具体的な達成目標があり、多摩市または東京都が進捗を計測しているのか。

◇計測していない。

○災害対策について。最近は獣害も騒がれており、自然との共存という点で関連している。多摩市周辺でも多くの動物が生息しているという話も聞く。人間が自然と共存するという視点を忘れずに、災害対策についても検討する必要がある。

○今の計画では SDGs の目標 3・4・5・8・10・16 がピックアップされているが、こちらを選んだ理由は何か。

◇計画に相応しい目標としてピックアップしていたが、他の目標も関連がないわけではないため、「5　ジェンダー平等を実現しよう」を主軸として掲載したうえで、すべての目標に関わりがあるという表記に変更する。

○ひとり親や高齢の女性については、困難女性の対象として明記しているが、「トランス女性」については明記しないのか。

◇「基本目標１課題２　困難な状況に置かれている方への支援」で、「(１)困難な問題を抱える女性への支援」と繰り返している。計画内容としては、まず (1) で推進体制について触れ、その下に「(2) ひとり親家庭」、「(3) 高齢者、障がい者、生活困窮者等への支援」また、「(4)性的志向、性自認 (SOGI) に関する課題を抱えている当事者等への支援」と属性で分けている。トランス女性については、(4) に含んだうえで、自認が女性であれば困難女性にも当然含むという考えである。

○当事者の方がこの記述を読んだとき、自身が「性的マイノリティ」と括ってあることを是とするかどうか。困難女性支援法の施行時に、トランス女性のことを無視している、と声を上げている方もいたため、何かしらフォローが必要ではないか。

○多摩市は条例だと「性的マイノリティ」という言葉は使っておらず、「すべての人が、性別による差別的取扱い、性的志向及び性自認による差別並び性別に起因する暴力を決してしてはならない」としているため、ここに「トランス女性」の用語が入ってないことについては、問題ないと思う。しかし、計画内の説明文で、具体的な対象として「トランス女性」を明記したら、当事者にとっては心強いのではないか。

○その意見に賛成である。

○一方で、「トランス女性」を入れるなら、「トランス男性」も入れる必要があるのではないか。

○トランス女性については、自死率の高さなど、困難も大きい。困難女性支援の枠組みで、「(4)性的志向、性自認 (SOGI) に関する課題を抱えている当事者等への支援」だけが外出しにされていると受け取られないような工夫が必要。

○SOGI の認知度の低さも課題ではないか。SOGI についてのコラムを掲載し、そこに「トランス女性も含まれる」と掲載するのはどうか。

○賛成である。
○しかし、トランス女性だけを取り上げるのはやはり違和感が残る。
○巻末の用語集の中でSOGIについて解説してはどうか。
○「男女平等参画推進のための意識啓発と情報提供」を重点施策と位置付けているが、継続している取組について、今回改めて重点化した狙いは何か。
◇意識啓発と情報提供については、第１次計画の頃から続く基本の取組だが、ワーク・ライフ・バランスやＤＶの防止など、他の課題も、結局は固定的性別役割分担意識や、アンコンシャス・バイアスが根底にあるため、ここをしっかり取り組んでいかないと、全体の改善も進まないという考えで重点施策とした。市内中学校の生徒が、特別活動で女性センターに来た際も、中学生はまだジェンダーギャップや固定的性別役割分担意識をあまり感じておらず、家庭でも性別による押しつけはないと話していた。今年度実施した若者向けの男女平等参画ワークショップでも、大学生からは同じような意見が出た。しかし、若い世代でも、就職して社会生活を送っていく中で、ジェンダーギャップやアンコンシャス・バイアスの存在に苦しんだという意見もあり、子どもの周りの大人を含むあらゆる世代に意識啓発していく必要があると考え、改めて重点施策とした。庁内の推進会議においても、結局は固定的な性別役割分担意識とアンコンシャス・バイアスが課題という意見が出た。
○「困難な状況に置かれている方への支援」という課題全体が、「多摩市困難女性支援基本計画」に位置づけられているとの記載があるが、その中に「性的志向・性自認（SOGI）に関する課題を抱えている当事者等への支援」という施策を含むため、「困難女性」は性自認が女性の方を含む幅広い方が対象とするという認識でよいか。
◇その視点で言うと、ひとり親や高齢者・障がい者も、男女を問わない課題として考えている。計画内では、それぞれの施策の右側に★（星印）として、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律に関連する施策」として、関連施策をピックアップしている。困難女性支援は、計画全体として進めていく取組である。
○男女問わず困難を抱えている人々への支援をうたっているが、その中で特に女性であることによる困難さも根底にあると理解すれば整理はつくのではないか。
○ひとり親、高齢者、障がい者、生活困窮者については、男性でも困難を抱えているが、重点施策としては、「困難を抱える女性に対する施策」であることについて、どう表現するとよいのか。
◇現行計画でも「困難な状況に置かれている方への支援」という課題が挙げられていて、すべての人を対象とはするが、特に経済社会において、女性の方が社会的排除のリスクが男性より高い、という文脈になっている。困難な状況に置かれている方への支援ということで、男性、女性とはあえて書かずとも、課題感としてはやはり主に女性を対象としている計画ではあるので、そのように読み取っていただくものと考える。
○今回の見直しでは、ひとり親世帯として父子世帯についても言及があるが。
◇男女平等参画社会の目指すべきところは、男女それぞれが暮らしやすい社会の構築であり、本計画も女性だけが困難性をまとっているという書き方はしていない。しかし、そこに男女の性差があるのではないかという視点も重要。今回、新しく「困難な問題を抱える女性への支援」という施策が立ったために、他の施策についても対象がわかりにくくなってしまった面はある。

○「困難な状況に置かれている方」について、多摩市困難女性支援基本計画という新たな括りが入ったおかげで混乱しているだけで、困難な問題を抱える女性、女性であるからこその課題を持っている方への支援が重点施策に立ち上がったことは何の問題もなく、重要な点である。

◇個別の具体的な支援はそれぞれの、ひとり親や障がい者、高齢者への支援をベースとして、例えばひとり親で女性、障がい者で女性というような複合的な困難を抱える方についても、より連携して支援を進めていくというイメージである。

○具体的な課題については、省略しているが基本的には女性を対象にしているように思う。

◇事務局としては、「(1) 困難な問題を抱える女性への支援」を困難女性支援基本計画の軸としつつ、他の関連施策については★印（「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」に関連する施策）で補うようにして、表現しようかと考えている。性別にかかわらず様々な課題を抱えている方はおられるが、女性特有の困難さというものがあるために困難女性支援法が出来たという文脈を汲み取り、まずは体制作りを進めたいという方向性で考えている。他に整理のアイデアがあれば、後日でも事務局までご連絡いただきたい。

○審議会等における女性委員の参画促進について、グラフで「多摩市の委員会・審議会等における女性委員の比率」が示されているが、極端に女性の多い委員会と、極端に女性の少ない委員会とあって、それらをすべて混ぜて平均化した数値では意味をなさないのではないか。

◇「市の各種委員会・審議会における女性比率」を 50%以上にするというこれまでの指標から、「市の各行政委員会、附属機関等において、一番多い性別の割合が 60%を超える委員会の全体における割合」が新たな指標なので、グラフは新たな指標に沿ったものへ変更したい。

○地域における女性活躍について、「多摩市では地域活動の場合は多くの女性が活躍しています。」と書いてあるが、それでもまだまだ足りていない、という表現を加えてもよいのではないか。

◇市民参画を担当する部署の分析によると、他の地域と比べて、多摩市は地域活動への女性の参画が多い方であるが、リーダー的立場にいるかどうかについては、男性がリーダーになる分野と女性がリーダーになる分野とが分かれているため、分野を問わず男女の偏りなく参加を促すことが課題となっている。民生委員は女性が多いのに対し、自治会長は男性が多いなどが例としてある。

○多摩市では、自治会自体が古くからの地域に多く、ニュータウン地域は、そもそも自治会がないところもある。

○ニュータウン地域で生まれ育ったが、例えば PTA 活動は母親ばかりで、固定的性別役割分担が強化される分野ではないかと思う。母親が PTA に積極的に参加するおかげで父親は参加しない、結果として、性別や役割分担で強制されている訳ではないが、自然と自治会は男の集まりとなり、PTA は母親会となるように思う。

○このような問題意識も検討課題にうまく入るといい。

○2000 年以降の LGBT への配慮についても書いてもいいのではないか。

○DV 被害者支援について、外側から見るとどの部署が連携をして支援をしているのか見

えにくい部分がある。庁内の体制で女性センターを中心にどういった部署があって、どういった連携をしているのか、具体的な記載があると分かりやすい。

◇DV 被害者支援については、加害者等から被害者を保護する目的で、担当や部署を公にしにくいという構造がある。

○リニューアルした中央図書館などで PR 活動を行ったら、地域を問わず女性センターの認知度が向上すると思う。

◇中央図書館では、国際交流の部署と共催でアイスランドの男女平等参画に関するイベントや、DV 防止に関する啓発展示を行っている。地域性を踏まえた女性センターの認知度向上については、来年度以降の取組として検討していきたい。

○アイスランド映画「女性の休日」を見たが、とても良い映画で、劇場には若い世代の女性や男性もちらほらいて、注目のされ方が面白いと感じた。関連して、日本版「女性の休日」活動のような取組なども面白いかもしれない。

2　その他

◇次回審議会は、令和 8 年 2 月 19 日（木）17 時開始を予定。今回に引き続き、中間見直しの審議を行っていただく。

以上